

Poster | 外科治療

Poster (III-P43)

Chair: Sadahiro Sai (Dept. of Cardiovascular Surgery, Miyagi Children's Hospital)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

[III-P43-09] 完全型房室中隔欠損症の治療

○中田 朋宏¹, 池田 義¹, 馬場 志郎², 平田 拓也², 湊谷 謙司¹ (1. 京都大学医学部附属病院 心臓血管外科, 2. 京都大学医学部附属病院 小児科)

Keywords: 完全房室中隔欠損症, 外科治療, two patch法

【背景、目的】完全型房室中隔欠損症(CAVSD)根治手術において、共通房室弁(CAVV)を変形させないことを最優先とするために two patch法を採用している。当院での CAVSDの治療成績について検討を加えた。【対象】2000~2016年に当院にて根治手術を施行した CAVSDの連続25例(TOF合併例含む、Polysplenia例は無し)。Rastelli分類は A型15例で、C型10例であり、double orifice of M valveが2例で、術前 moderate以上の CAVV逆流は7例であった。合併心奇形は TOFが4例(うち P弁閉鎖が1例)で、CoA合併が1例であった。先行手術は、PABが4例(うち1例は CoA修復と共に)、BTシャントが3例であった。Down症候群は20例。根治時の平均月齢は 7.8 ± 5.0 ヶ月(中央値は5.7)、体重は 5.3 ± 1.5 kg(中央値は4.9)、follow-upは100%で、平均観察期間は76.3ヶ月であった。なお心 echoにおける逆流の程度は、noneを0、trivial/slightを1、mildを2、moderateを3、severeを4として算出した。【結果】術後死亡は、Down症で RV低形成を合併し、PAB後も PHが遺残していた1例が病院死。Down症で根治後も PHが遺残していた1例が感染を契機に遠隔死となった。術後再手術は、MS+ LVOTOに対する手術が1例(2.4年後)、MRに対する手術は無し。その他 TOF合併例に対する P弁置換手術が1例(10.5年後)であった。術後心 echoにおける、退院時の MRは 1.13 ± 0.69 (moderateが1例:follow中に徐々に改善し、最新では slight)、TRは 1.63 ± 0.80 (moderateが3例)。最終 follow時の MRは 1.04 ± 0.71 (moderate以上:無し)、TRは 1.33 ± 0.85 (moderateが2例)で経時的に逆流が悪化するような症例は無かった。術後心カテーテル検査を施行した14例における、Pp/Psは 0.36 ± 0.06 、LVEDVは正常比 $103.5 \pm 13.2\%$ 、LVEFは $73.9 \pm 5.9\%$ 、RVEDVは正常比 $120.7 \pm 27.1\%$ 、RVEFは $60.7 \pm 4.2\%$ であった。【結語】CAVSDに対する two-patch法により、共通房室弁形態が温存され、弁機能ならびに心機能の遠隔期成績は良好であった。